

六頭だての箱馬車が大通りを進んでいく。屋根は色とりどりの花で埋まり、車体は白い布で覆われている。馬を駆る御者の胸には花飾りが一つ、大輪の花が咲いている。

花嫁を乗せた花馬車だ。

大通りの両端には人垣が溢れている。通り過ぎる馬車に向かい、花びらを混ぜた七色の紙片を投げかけるのは、花嫁を祝福する慣わした。

人々は、興味深げにその馬車を見送った。

馬車の周囲を護るのは、異国の軍服を着た兵士たち。彼らが護る馬車の主人は、この国の王に嫁ぐ若き異国の姫君だからだ。

にぎやかな演奏とともに、花嫁の行列は大通りを進む。

馬車を待ち受ける人々の隙間から、小さな子供たちが飛び出してきた。

「ねえ、ママ！ 花嫁さんが来るよ！」

人混みを抜け出した少女が、無邪気に母を呼ぶ。

「すごい！ 兵隊さんだ」

少年は、礼装の兵士たちにあこがれのまなざしを投げる。

「ランディ、ビティ！」

けれど、二人の母親は金切り声をあげて子供たちを呼んだ。小さな腕を掴んで胸元に引き寄せられるのも忘れない。

「飛び出しちゃダメだと、あれほど言ったでしょう！ なんで言うことが聞けないの！」

女の子の顔が見る間に歪んでいく。けれど母親は、幼い兄妹を引きずって人垣の中に紛れていった。

子供の甲高い泣き声は、丁度さしかかった箱馬車に向ける人々の歓声にあっけなくかき消された。

「やっぱりすごいわね。聞いていた以上だわ」  
馬車の中、窓の外に視線を投げていた少女は、感嘆の籠も

ったため息をついた。  
彼女が身に纏うのは、白一色の花嫁衣装。大きく開いた胸

元を飾りたてる寶石細工は、夫となる男から送られたものだった。  
「ええ、実際に目にするとうよく分かります」

向かいに座った女性が答えた。花嫁より幾分か年上の、落

ち着いた霧囲気を纏っている。花嫁を介添える侍女の装いだ、その口調には隠しきれない緊張が見え隠れした。  
馬車は丁度、庶民たちの暮らす一画を通り過ぎているところだった。空を遮るほどに高い建物が屋根を並べてひしめき

合っている。  
五階建て六階建ての建物の窓から色鮮やかな紙片が投げ落

とされるのは壯観とも言える眺めだったが、彼女たちにそれを  
楽しむ余裕はない。

窓越しに見える大きな建造物をながめて、花嫁は唇をかんだ。  
彼女たちの祖国であるフルフィウスに、ここまでの技術力はない。

どころか、彼女が旅の途中で立ち寄った地方都市でさえフル  
フィウスの首都よりも立派なものがいくつもあつた。

それが、彼女たちの祖国との力の差なのだ。

フルフィウスは、大河の河口に半円状に広がる国土を持つ、  
小さな国だ。大河がもたらす肥沃な大地を利用した農耕と、  
外洋を通じた商業を主な産業としている。自然の立地に助け  
られた国だと言つてもいい。

エレミアは逆に、自らの手で繁栄をつかみとつた国だと言  
える。北の荒野にできた小国が、民を生かすため、国を富  
ませる為は何十年もの歳月をかけて領土を拡大してきたのだ。  
より暖かな土地を、より豊かな土地を求めて、エレミア  
は戦い続けた。そして、隣国を喰らい、飲み込み、膨れ上が  
りながら南下を続けた歴史を持つ国なのだ。

小国フルフィウスは、そのエレミアの侵攻のある意味で  
最後の目標とも言えた。フルフィウスを飲み込めば、肥沃な  
大河をすべて領土内に収めることができる。そして、他の大  
陸と接する外洋を、大きな港を、全て手に入れることができ  
るからだ。

少女が生まれる以前から、フルフィウスの人々は大国の  
侵攻におびえて生きてきたのだ。

けれど今、その風向きが少しだけ変わった。

きっかけは、エレミア前国王の急逝と、それに伴う後継  
者争いだつた。

一代で五指に余る隣国を攻め滅ぼし、霸王と恐れられた国  
王の死は、誰もが予想だにしなかつた事態だつたらしい。老  
齢に差し掛かつていたとはいえ国王は健在そのもので、正式  
な王位継承者も定まつてはいなかつた。

その上、国王には、正妻との間に生まれた長男を始め、諸  
侯が送り込んだ娘たちとの子、果ては討ち滅ぼした各国の姫  
君たちに産ませた庶子たちまでと、数え切れない程の息子が  
群をなしていた。

広大な領土と、それに付随する富と権力。突然主を喪つた  
それらの宝物を手中にしようと、内乱が勃発したのは、もは  
や必然の成り行きともいえた。

諸侯はそれぞれ、自分の血縁に連なる王子をかつぎあげた。  
庶子は、母の故郷の地方を頼り、名乗りを上げた。

後はもう、血で血を洗う内乱の始まりだ。

弱い者はあつてなく死んだ。王位継承権を放棄したはずの  
者も、疑心かられた兄弟によって殺された。

有力と目されていた正妻の息子でさえ、弟たちに攻め立て  
られて潰された。